



# 『でんきの安全と安心をおとどけする』

(有)原田電工社

型が出来てない者が芝居をすると型なしになる。  
 型がしっかりした奴がオリジナリティを押し出せば型破りになれる。  
 どうだ、わかるか？難しすぎるか。結論を言えば型を作るには稽古しかないんだ。  
 立川談志(落語家)

今回は過去に読んだ本や文章の中で、印象に残った一節をご紹介します。

不器用でも一流になれる人がいる。そこには必ず哲学があります。不器用な人は、器用な人ならしないですむ苦勞をしなければいけませんから、自ずと独自の工夫、哲学が生まれてくる。これは持って生れたものではありませんから、一度身につくと強いんです。器用な人は、もう一工夫、もう少しの地道な努力が足りない事が多いので、短い勝負で一時的に勝つ事はあっても、長期戦になれば最後は必ず不器用が勝つんです。  
 野村克也(プロ野球監督)

「人並みやって人以下、人以上やって人並み、人の倍やってようやく」と言うような事をずっと言われてきた。  
 高橋尚子(元マラソンランナー)

最も速く走ったマラソンランナーは、最も疲れているはずなのに笑顔で優勝インタビューに答える。体はととも疲れているかもしれないのに、決して「疲れた」とは言わない。「楽しかった」という。なぜならそこには「充実感」があるから。人は誰でも、最高の辛さを最高の喜びに変える「充実感」、という魔法の力を持っている。  
 福島正伸

リーダーは常に創造的な心を持っていなければなりません。常に新しい何かを求め、創造して行くという考え方を覚えていなければなりません。クリエイティブな何ものかを常に集団に導入し続けていかなければ、その集団の継続した進歩、発展は望めないからです。現状に満足する事は退歩につながります。現状維持で事を済ましていくリーダーの生き方は集団にも同様の影響を与えます。このようなタイプの人リーダーになったらこれは集団にとって最も悲しむべき事です。創造と言う物は、深く深く考え続け、考え抜くと言う苦しみの中からようやく生まれ出るものです。決して思いつきや単なるアイデアから得られるものではありません。創造的な心とは、持続した強い願望、それがもたらすあくなき追求心の事を言うのです。深く考える事、つまり苦しみもがき、のたうちまわる中で生まれてくる、創造的リーダーでなければなりません。  
 稲盛和夫

- 1・突発修理はすぐ対応する。
- 2・仕事を選ばない。
- 3・なぜ頼まれたかを考える。
- 4・仕事の目的の目的を知る。

「自利利他」利他を実践すればいつかは巡り巡って自分の利益になるという考え方ではなく、「利他の実践がそのまま自分の幸せなのだ」という考え方。 最澄

